



## 卒業生からのメッセージ



8月23日(木)の中学生日帰り体験入学のために来校した2人の卒業生に話を聞きましたので紹介します。

### 黒川絵理華さん(舞鶴中学校出身, 鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻1年生)

国分高校に進学したきっかけは、①姉が通っていて楽しそうだったこと、②勉強・部活動・学校行事を本気で両立している校風に惹かれたことです。

部活動は音楽部でトランペットを吹いていました。大変だったことは、部活動が他の部よりも遅い時期まであって、勉強と両立することが難しかったことですが、どうしたら両立できるかを部員で話し合っ、励まし合いながらあきらめずにがんばりました。そのときに先生方が支えてくださったのが印象に残っています。

3年生の体育祭が印象に残っています。受験勉強との両立が大変でしたが、本気でがんばって、競技も応援も優勝することができました。

家に帰ると9時には寝て3時に起きて、朝型の勉強に取り組みました。大学生活は高校時代よりも余裕ができて、いろいろな人に出会うことができ、視野が広がったと感じます。私は解剖生理学に興味がありますが、大学の勉強は奥が深いです。将来は、看護師・保健師・助産師の資格をとり、大学院に進みたいです。国分高校は、先生方が丁寧で温かく、素敵な出会いがあるところです。安心して受験してほしいです。



### 堀ノ内彩未さん(舞鶴中学校出身, お茶の水女子大学文教育学部言語文化学科1年生)

国分高校に進学したきっかけは、家から近く、自分の目指す進路に進める学校だと思ったからです。部活動は、演劇部と放送部でした。高校時代に苦労したことは、受験勉強です。小論文が苦手で、なかなか思い通りに書けませんでした。先生に指導していただいてがんばりました。国分高校でよかったことは、尊敬できる人(先生・先輩)に出会えたことです。

印象に残っていることは、放送部の朗読部門で全国大会に行ったときに、尊敬する先輩が練習にとことんつきあってくれたことです。授業では、学ぶだけではなく、先生の考え方を学ぶことを心がけました。大学の講義で面白いのは、芥川龍之介の「地獄変」がテーマの「日本文学概説」です。作品の語り手が100%正しく語っているのではないというところが面白いです。演劇を見るのが好きで、劇団四季の「ノートルダムの鐘」は大変感動しました。東京は大変刺激が強く、魅力を感じます。将来は放送関係の仕事につくのが夢です。

中学生のみなさんには、自分の選択に自信をもって、その先で尊敬できる人を見つけたいです。



